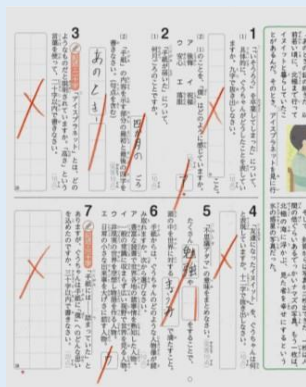


【課題3】

帰国・外国人児童生徒等への支援を窓口人間尊重の意識を高める研究の推進

①児童生徒・学校の実態

- ・今年度、1年生1名、2年生5名、3年生1名の計7名の生徒に個別の指導を行っている。
- ・日本語クラブの方と本校教諭で週に2～3時間程度、取り出し授業を行っている。
- ・生活言語を基盤として学習を進めており、学習言語に繋がる日本語指導の時間を多く取ってはいなかった。
- ・友達とのコミュニケーションも少なく、休み時間も同じ国の仲間同士で話していることが多い。



②ねらい(目標)

- ・コミュニケーション能力を高め、学習言語能力を高める指導を展開する。

③活動内容

- ・取り出し授業の中で小テストを行い、問いで聞かれている日本語のサポートを行う。
- ・レポートなどの提出課題のサポートを行う。
- ・定期テストに向けてワークを用いて、「問い」に使われる日本語を指導する。
- ・冬休みの課題を自学でできるところまでサポートする。
- ・周りの仲間との繋がりを深める声かけを行う。

- ・6月 行事のサポート
小テストサポート
定期テストに向けての学習
- ・7月 ワーク・小テストサポート
- ・夏休み中 夏休みの宿題サポート
- ・8月 小テストサポート
- ・9月 小テストサポート
- ・10月 小テストサポート
- ・11月 定期テストサポート
小テストサポート
- ・12月 小テストサポート
- ・冬休み中 冬休みの宿題サポート
- ・1月 小テストサポート
- ・2月 定期・小テストサポート



【課題3】

帰国・外国人児童生徒等への支援を窓口に人間尊重の意識を高める研究の推進

④成果

【小テスト】

- ・共に学習したところは理解が深まり、テストで答えることができた。
- ・以前よりも、学習したことが「点数」に繋がることが多くなり、生徒の意欲に繋がった。

【定期テスト】

- ・小テストで学んだ内容が定着してきたところもあり、小テスト学習が定期テストの結果に繋がった。

【仲間との繋がり】

- ・学級の仲間にサポート願いの声かけを行ったことと、生徒のコミュニケーション能力が高まったこともあり、わからないところを学級の仲間に聞いて解決する場面が見られた。

⑤課題

【学習意欲を高める指導】

- ・「点数」として見える形で学習成果が出たため、以前よりは学習意欲が高まったが、取り出し授業で理解したところだけで満足してしまったところがあった。

【自学】

- ・取り出し授業の中で、学習の仕方について促してはいたが、なかなか自学に繋がらなかった。

⑥今後の取組の方向性

【学習意欲・自学】

- ・本人の要望・保護者の要望を聞き、どのように学習をしていきたいか、進路も見据えながら考えさせる。

- ・自学の範囲を明確に示し、スモールステップで自学での学習量を増やしていくように促す。

【課題3】

帰国・外国人児童生徒等への支援を窓口人間尊重の意識を高める研究の推進

⑦参考資料



『中学生のにはんご学校生活編』
(スリーエーネットワーク)

JICA北海道 多文化共生セミナー
**違っていて当たり前！
 多文化・多言語の中に生きるということ**

**7/22(土)
 14:00-16:00**

講演: 違っていて当たり前！多文化・多言語の中に生きるということ
 講師: 星野ルネ氏 漫画家&タレント

パネルトーク: 外国にルーツをもつとさんこと考える 多様性の中に生きる私たち
 登壇者: 星野ルネ氏(カメルーン出身)
 高校生 ムスタファ マイサム氏(アフガニスタン出身)
 高校生 グエン・コア・ホアン・クワン氏(ベトナム出身)

JICA北海道 多文化共生
セミナー参加

外国につながる親子のための「高校進学ガイダンス」

日時: 2023年11月3日(金・祝) 14:00-15:30

場所: 札幌国際プラザ(中央区北1条西3丁目 札幌MNビル3階) MAP

対象: 小学5年生以上の日本語指導等が必要な帰国・外国人児童生徒とその保護者

「高校進学ガイダンス」参加